

“浪江産CO2フリー水素”の利活用を目指し 福島水素エネルギー

研究フィールドが開所



町内でも水素が活用されます

福島水素エネルギー研究フィールドでは、太陽光発電（20メガワット）による電力で水を電気分解し、水素を製造します。

“浪江産CO2フリー水素”は、町内での活用も検討されています。7月に一部オープン予定の「道の駅なみえ」では、水素で発電した電力を供給すると同時に、発電時に生じた余熱を利用した温水も供給します。また、町内の宿泊温浴施設「福島いこいの村なみえ」においても、水素による発電を導入し温浴施設に温水を供給できないか、検討を進めています。

また、水素で走る燃料電池自動車を用車に導入する検討を進めるなど、町としても、水素社会の実現に向け、水素利活用に積極的に取り組んでいきます。

浪江の子供たちがデザインしたトレーラーが

“東京へ水素を届けます”

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、オリンピック・パラリンピック史上初めて、聖火台や聖火リレートーチの燃料に水素が活用されることになり、“浪江産CO2フリー水素”も活用されます。

“浪江産CO2フリー水素”を運搬するトレーラーには、浪江にじいりこども園の園児、なみえ創成小・中学校の児童・生徒によってデザインされた絵が描かれていて、会場で披露されました。

トレーラーの側面には、「水素」をキーワードに、自由な発想の下、個性豊かな色使いで描かれた絵がプリントされています。

近い将来、浪江や東京、さらには全国各地を、華やかに彩られたトレーラーが駆け巡ります。

浪江の子供たちがデザインしたトレーラーが

“東京へ水素を届けます”



福島水素エネルギー研究フィールドの開所式が行われました

3月7日、棚田産業団地において、世界最大級の水素製造能力（10メガワット級）を有する「福島水素エネルギー研究フィールド（通称：FHER）」の開所式が行われました。

澄み渡る青空の下、安倍内閣総理大臣をはじめ、梶山経済産業大臣、田中復興大臣、内堀福島県知事、吉田町長などが出席し、テープカットが行われ、開所を祝いました。

安倍内閣総理大臣からは「原発事故で大きな被害を受けた福島から、未来の水素社会に向けた新しいページが今まさに開かれようとしている。福島水素エネルギー研究フィールドは、水素社会実現につながる世界最大のイノベーションの拠点となる」と挨拶があり、福島水素エネルギー研究フィールドの大きな可能性に期待を寄せていました。

①いよいよ開所！水素社会実現へ ②世界最大級の施設を上空から ③浪江の子供たちが描いた絵が全国各地に ④安倍内閣総理大臣を中心に、盛大にテープカット ⑤“浪江産CO2フリー水素”を貯蔵する「水素貯蔵施設」 ⑥水素の限りない可能性に日本の明るい未来を重ねて ⑦町の新たな復興のシンボルに期待を込めた町長の挨拶 ⑧当日は施設見学も実施 ⑨水素で走る車「新型ミライ」で安倍内閣総理大臣が登場
※①・②の写真は、東芝エネルギーシステムズ株式会社提供



問 産業振興課産業創出係 TEL 0240(34)0248